

# 長崎県子連NEWS

## あそびひろく子ども会

長崎県子連ニュース No.50  
2025年(令和7年)3月

発行/一般財団法人 長崎県子ども会育成連合会  
〒850-0029 長崎市八百屋町36(長崎県教育会館内) TEL・FAX095-827-4574  
URL <https://www.kodomo-kai.or.jp/nagasaki/> e-mail [nagasaki@kodomo-kai.or.jp](mailto:nagasaki@kodomo-kai.or.jp)

### 子ども会の現状と今後に向けて

一般財団法人 長崎県子ども会育成連合会会長 北御門 長蔵



子ども会は住んでいる地域の乳幼児から高校3年生の年齢相当までの子どもたちで構成される異年齢の子どもの集まりで、主役はあくまで子どもたちです。そこに、保護者や地域の大人たち(育成者・指導者と呼ばれる)などが運営の

サポートにまわります。子どもたちに主体的に活動してもらうため、大人たちはあくまで見守り役というスタンスです。

長崎県内には、2、3人の1家族だけの小さな子ども会から、100人を超える子ども会、中には340人と非常に突出して多い子ども会もあります。ほとんどは数十名からなる子ども会が多いようです。また、地域によっては「〇〇子ども会」「〇〇育成会」「〇〇自治会子ども部」「〇〇子どもを守る会」というように呼び方、名称も異なります。

各子ども会では、例えば新入生歓迎会、七夕祭り、ラジオ体操、クリスマス会、マラソン大会、節分祭、グラウンドゴルフ大会、地区パトロール、もちつき、お楽しみ会、校区祭り、廃品回収、送別会、鬼火焚き、ドッジボール大会、子どもみこし、ロードレース大会、バーベキュー、少年の主張等々、実に様々な活動に取り組んでいます。



このような活動を通して、子ども同士、大人同士、世代間同士のつながりが深まり、地域で子どもたちを見守り、育てていく体制が整えられ、強化されていきます。子どもも大人も、地域の中に自分の居場所を見つけ、社会の一員として活動することの喜びを味わっていきます。子どもたちは協力することや思いやることの大切さを学んでいきます。

ところが、こうした地域のつながりを深め、子どもたちの成長を見守る「子ども会」が、ここ数十年で大きな変化に直面しています。

長崎県では、昭和61年、県内で2,800の単位子ども会、18万5,000人の会員数をピークに、減少の一途をたどり、昨年令和5年には、単位子ども会がピーク時の半数の1,430、会員数においては、ピーク時の1/3以下の53,000人余りにまで激減している状況です。



では、なぜ子ども会は減少しているのでしょうか。最大の要因は、少子化にあります。子どもの数が減ってくると、子ども会の存続が危ぶまれるのも仕方ありません。

「塾やスポーツ、習い事など、子どもの多忙化」や、「共働き世帯が増え、役員のみ手がない」などを指摘する声もあります。さらには新型コロナウイルスの影響

響など、さまざまな要因がこの減少を引き起こしていると考えます。

子ども会が減少、あるいは地域からなくなってしまうと何が起こるのでしょうか。

まず、子どもへの影響を考えてみましょう。

コミュニケーション能力の低下が心配されます。なぜなら子ども会の特色である、学年の違う子ども同士の交流が途絶え、子ども同士のつながりが同学年に限定されるからです。子どもの世界がせまくなり、子ども同士によるトラブル解決能力が低下するでしょう。

また、子どもと地域の関わりが薄くなります。

子ども会を通じてボランティアなど地域活動をした体験が思い出となり、いずれ郷土愛につながります。それがなくなってしまうえば、進学や就職で地域を離れた子どもたちが、地元には帰ってこなくなるかもしれません。



一方で、地域の大人への影響も少なくないでしょう。

子ども会を通じて関わっていた我が子以外の子どもとの交流が途絶えれば、地域で子どもを育てると意識が希薄になります。そうなれば、近所で子どもが困っていても見てみぬフリをするかもしれません。

子ども会の衰退は、他の地域コミュニティの衰退へ直結します。

子ども会は地域活動への入り口です。これは子どもに限った話ではありません。我が子の子ども会活動への参加を通して、親が地域活動に参加します。それをきっかけに親はPTAや自治会へも参加する機会を得ます。子ども会がなくなれば、若い世代が地域活動に参加するきっかけを失うのです。

では、どうしたらよいのでしょうか。

子どもも親も忙しい今の時代に合った子ども会の在り方を探っていきたいものです。例えば、次のような取り組みは考えられないでしょうか。

- ① 保護者の負担を軽減するため、中高生や大学生、子育て終了世代、退職世代に子ども会の運営を依頼する。
- ② 自治会に加入している子どもが、そのまま子ども会にも加入する仕組みを作る。
- ③ 自治会の中に子ども会の組織を入れ、役員を自治会でサポートするなど、保護者の役員負担感を軽減する。

- ④ 加入者の減少に伴い、近隣の子ども会と統合し、代表は置くが、役員は廃止する。
- ⑤ 各行事では保護者が無理のない範囲で運営に参加し、地域ボランティアも協力する。
- ⑥ 会費はなく、月1回の廃品回収で得た資金を活動費に充てる。
- ⑦ 完全独立組織とし、活動については他の組織から干渉を受けることがないようにする。
- ⑧ 入会は希望者のみで、退会は理由、時期を問わず自由とする。
- ⑨ 役員を輪番で廻さない(出来る人が出来るときに出来ることをする)
- ⑩ 子どもが進んで参加したいと思えるような活動を計画する。
- ⑪ 伝達網を整備し、不要な会議はできる限りしない。
- ⑫ 過去の活動にとらわれることなく、今年の活動は今年の会員が出来ること、やりたいことを決める。
- ⑬ 子ども会は子ども(小学生や中学生)だけのものではなく、すべての世代が何らかの形で子ども会に携わることが大切であること、街づくりの活性化につながることを周知する。



子ども会は健やかな子どもの成長のために必要不可欠な組織でした。少子高齢化により、子どもの数が減っていますが、子ども会がなくなってもいいということではありません。実際、子ども会がなくなってしまった地域もありますが、それは地域が結束するためのひとつの有用なツールを失ってしまったというふうと考えられないでしょうか。

地域全体で子どもを見守り育てていくという構え、地域の人々が世代を超えて同じ時間と場、活動を共有しようとする姿勢は、時代が変わろうとしている今こそ、私たちは大切にしなければならないと考えます。



# 第57回全国子ども会育成中央会議・研究大会(沖縄大会) 第55回九州地区子ども会育成研究協議会

本年度の全国大会は、令和6年11月16日(土)～18日(月)、九州地区子ども会育成研究協議会と兼ねて沖縄県那覇市で開催されました。

今大会のテーマは、『子どもは宝 地域を繋ぐ子ども会のチカラ』です。  
全国から約530名が集まり、大会テーマのもと、熱心に研修するとともに、各種交流を深めました。長崎県からは北御門長蔵会長以下九子連表彰受賞者を含め6名が参加し、諸橋芙美副会長が第4分科会で立派な発表を行いました。他県(政令市)子連と積極的な情報交換等を行い、有意義な大会となりました。



アトラクション



開会式



九子連表彰：高田 聡美 様



九子連表彰：半田 久代 様

大会日程	第4分科会
<p><b>大会1日目(11月16日(土))</b> ※アトラクション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会式 13:30～</li> <li>2 表彰式 14:15～</li> <li>3 記念講演 15:15～                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・演題「自分の可能性は無限大 夢へダッシュ 世界一までの軌跡」</li> <li>・講師 譜久里 武氏</li> </ul> </li> <li>4 受賞者記念撮影 17:00～</li> <li>5 受賞者を囲む会・情報交換会 18:30～</li> </ol> <p><b>大会2日目(11月17日(日))</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 分科会 9:30～</li> <li>2 昼食 12:00～</li> <li>3 全体会(分科会発表) 14:15～</li> <li>4 閉会式 15:30～</li> </ol> <p><b>大会3日目(11月18日(月))</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 視察                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択コースに分かれて研修 (終了後 解散)</li> </ul> </li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">テーマ「ジュニア・リーダー指導と育成」 ～未来へつなぐリーダーを育てるために～</p> </div> <p>県子連の諸橋芙美副会長が、佐世保市子連の活動について、特にジュニア・リーダーの指導と育成に焦点をあて、パワーポイントを使いながら発表しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>定期総会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>少年の船</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>危険予知勉強会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>成人式</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>子ども会大会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新ジュニア・リーダー</p> </div> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>記念講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>受賞者を囲む会・情報交換会</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>第4分科会発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>閉会式</p> </div> </div>

# 令和6年度第44回 長崎県子ども会伝承芸能大会 in 佐世保市

本年度で44回目を数える長崎県子ども会伝承芸能大会が、令和7年2月9日(日)、相浦地区コミュニティセンターにおいて開催されました。市内はもとより県内各地から約200名の参観者がありました。開催にあたっては、長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会ならびに佐世保市子ども会育成連絡協議会の多大なご支援とご協力をいただきました。出演団体には県子連会長から賞状と記念品が贈られました。

## あがりや台・華・屋台ばやし〔五葉太鼓保存会〕



五葉太鼓は、平成17年に上町、元町、泉町、園田町、長尾町の中部5区子供会を中心に立ち上げた太鼓です。5ヶ町の公民館「五葉館」があり、そこには、金刀比羅宮の祠が祀ってあります。毎年10月に町民の融和と健康を祈願し、子供神輿と太鼓を奉納しお祭りをいたします。その奉納太鼓として「五葉太鼓」が結成されました。演奏活動は金刀比羅宮大祭や清水地区公民館祭り、地域では夏祭り、老人ホームなどの施設を訪問し活動しています。演奏活動を通して子供たちの健全育成を目指しています。



司会進行  
ジュニア・リーダー

## 春の踊り・千年の道・長崎さわぎ〔瑞紀流〕



瑞紀流は、佐世保市・川棚町・西海市で小学生から大人は94歳の方まで、古典舞踊から現代の曲に合わせた創作舞踊まで、世代やジャンルを超えた踊りを楽しくお稽古しています。舞踊を通して日本の伝統文化を大切にする心を持ち、正座をしてお辞儀の挨拶から始まり、終わりの挨拶まで、礼節を重んじることをモットーに取り組んでいます。日頃の練習の成果を発表する時は、とても貴重で有難く、今回は『春の踊り』『千年の道』『長崎さわぎ』の3曲を披露いたします。



県子連  
北御門長蔵 会長



県教委  
谷口 英次 参事

## 吹奏楽〔ブラッシュューデ〕



2018年、皆瀬小学校のクラブ活動から社会体育クラブに変更になったのを機に、佐世保弁で「ブラスをしようよ！」という意味の「ブラッシュューデ」が誕生しました。現在、同じ中学校区の皆瀬小学校と中里小学校の他、相浦西小学校の金管バンドクラブも一緒に活動しています。佐世保らしいジャズにも挑戦しました。この1年、九十九島音楽祭やPTA 親善大会、地域の行事、高齢者施設での訪問演奏会等に出演しています。



佐世保市  
陣内 康昭 教育長



佐世保市教委  
田村 宏治 課長

## 民謡合唱・銭太鼓〔北松祥加会民謡こども会〕



北松祥加会民謡こども会は公益財団法人 日本民謡協会長崎県連合会に所属するグループです。佐世保市や佐々町を中心に伝統文化である民謡・三味線・尺八・銭太鼓などのお稽古に励み、市内外のイベントや九州各地の民謡大会に出演するなど精力的に活動しています。今回は民謡合唱で子どもたちの元気な唄声をお届けいたします。また、島根県出雲地方に伝わる伝統楽器「銭太鼓」を使用した演目を披露します。



佐世保市子連  
永田 毅 会長



## 長崎県子ども会指導者・育成者研修会〔西海市大会〕

- 1 日時 令和7年2月16日(日)  
13:30~16:30
- 2 会場 西彼保健福祉センター 遊湯館
- 3 内容 ①県子連表彰式  
②開会行事  
③事例発表  
④質疑応答  
⑤指導助言  
⑥全体研修会  
⑦閉会行事



主催者 西海市子連会長  
県子連会長



祝辞 県生涯学習課  
参事 谷口 英次 様



祝辞 西海市教育委員会  
教育長 渡邊 久範 様



西海市子連大崎支部  
副支部長 谷下 理恵

## 研究協議会

研修テーマ 「子どもの手による子ども会」の定着と発展を図ろう  
～ジュニア・リーダーの手による子ども会運営を目指そう～

☆事例発表

①太田尾子ども会  
今村 昭利 氏 鳥井めぐみ 氏  
「子ども会活動による地域の活性化」というテーマで取り組みました。『大人が変われば、子どもも変わる』から『子どもが変われば大人も変わる』へと発想を転換し、地域内事業を全て子ども会中心の事業として、取り組んでいきます。



②西海市子ども会育成連絡協議会 西彼支部 谷内 康弘 氏  
西彼支部では、自治組織や行政、小中学校が連携し、子ども会活動を支えています。今後は、子どもが子ども会活動に主体的に参画・活動していく機会や環境づくり、育成者の学習機会の確保等に努めていきます。

☆質疑応答

- 子ども会の参加率と予算
  - 行事の運営と個人情報保護
  - ホームページの運営と経費
  - 子ども主体となる大人側のしかけ
  - 子ども会が利用しやすい補助金
  - 子ども会入会のよさと喜び
- 等が話題になりました。

☆指導助言 県子連専門委員長 谷口久美子

失敗体験、時間のかかる体験は、子どもにとって大きな学びです。子どもをお客さんにしないという共通認識のもと、子どもの手による子ども会を目指していきましょう。キーワードは「つながり」です。



☆全体研修会 県立西彼青年の家所長 池田 研 氏

「子どもと楽しむレクリエーション」というテーマで、  
①リズム体操肩たたき ②一人じゃんけん  
③かんたん指の体操 ④トントンスリスリ体操  
⑤中に浮くウイナー ⑥人差し指鼻あてパー  
⑦絵と文字による伝言ゲーム  
等を紹介していただき、参加者全員で楽しい時間を共有しました。



# 令和6年度 全子連・九子連・県子連表彰 受賞者一覧表

## 令和6年度 全子連表彰

区分	地区	氏名	団体名および役職名	活動年数
個人	長崎市	松尾 陽子	西浦上小育成協事務局次長	29年
個人	諫早市	橋本 眞弓	諫早市子連専門指導員	42年



松尾 陽子 様

## 令和6年度 九子連表彰

区分	地区	氏名	団体名および役職名	活動年数
指導者	長崎市	梶原 裕二	長崎市子連専門委員	22年
	長与町	高田 聡美	長与町子連理事	22年
	長与町	半田 久代	長与町子連副会長	18年



橋本 眞弓 様

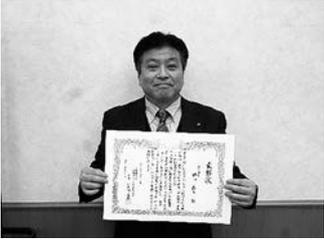
## 令和6年度 県子連表彰

(個人)

区分	地区	氏名	団体名および役職名	活動年数
指導者	長崎市	横山 隆幸	横尾中育成協事務局長	24年
	時津町	山脇 清治	元時津町子連会長	11年



梶原 裕二 様



横山 隆幸 様



山脇 清治 様



半田 久代 様



高田 聡美 様

## 令和7年度県子連主要事業計画(案)

事業名	開催日	会場
県子連第1回理事会	5月16日(金)	県教育会館
県子連評議員会	6月6日(金)	県教育会館
安全啓発(初級)指導者養成講習会	6月21日(土)	県教育会館
県子連ジュニア・リーダー研修会	7月19日(土)~21日(月)	新上五島町
九州地区子ども会ジュニア・リーダー研修会	8月1日(金)~3日(日)	沖縄県
全国子ども会育成中央会議(九州地区子ども会育成研究協議会)	11月15日(土)~16日(日)	熊本市
県子連伝承芸能大会	未定	長崎市
県子連指導者・育成者研修会	未定	諫早市
県子連第2回理事会	3月13日(金)	県教育会館

シリーズ  
「我が市・町の子ども会活動」

① 吾妻子ども会「フードドライブ事業」

令和4年度から取り組んでいます吾妻子ども会「フードドライブ事業」を紹介させていただきます。  
この取組は年2回(夏・冬)雲仙市社会福祉協議会とともに、子どもたちに食の大切さと人を思いやる心を育むことを目標に小中学生が地元の自治会と協力して、家庭で眠っている食料品等を自治公民館で集め、雲仙市社会福祉協議会で集約し「フードバンク」として生活で困っている方々に無償でお配りするものです。

子どもたちは事前にチラシを配ったり、集まった食材を仕分けし、配送トラックに積込んだりして楽しく頑張っています。地域柄お米の提供が多くあります。



② 佐世保市子ども会育成連絡協議会「かべ新聞コンクール」

夏休みを中心に、子ども会のメンバーが集まって、かべ新聞づくりに取り組んでいます。  
11月に審査会を開きます。各単位子ども会から力作が集まります。  
審査委員は長崎新聞社、教育委員会、PTA 会長、青少年育成会会長、ほか市子連のスタッフで行い、「金賞」「銀賞」などが決まっています。  
そして、2月に開催される「子ども会大会」で表彰式も行います。  
作品は市内の各所、銀行や市役所などに展示します。毎年、地元の新聞でもこの「かべ新聞コンクール」について紹介くださるので、子ども会関係者の皆様は喜んでおられますし、作成に参加した子どもたちの自信や励みになっているようです。



## 令和6年度 市町別加入会員数と加入率

令和7年1月31日現在

市町名	単子数	加入会員数(人)						加入率(%)〔加入数/児童・生徒数〕			
		未就学児(0-5歳)	小学生	中学生	高校生	指導者育成者	合計	未就学児(0-5歳)	小学生	中学生	小中計
県計	1,304	2,060	22,275	4,240	280	17,852	46,707	4.1%	34.6%	12.4%	26.9%
長崎市	143	191	3,180	284	26	1,675	5,356	1.4%	17.1%	3.0%	12.3%
佐世保市	173	236	3,617	572	18	2,622	7,065	2.4%	29.6%	8.7%	22.3%
島原市	132	238	2,140	223	10	2,563	5,174	14.7%	96.4%	19.9%	70.8%
諫早市	129	217	2,543	545	1	1,832	5,138	3.8%	35.0%	13.1%	27.0%
大村市	45	91	658	114	23	625	1,511	1.7%	10.3%	3.7%	8.2%
平戸市	87	133	906	277	11	856	2,183	13.6%	68.9%	39.5%	58.7%
松浦市	55	64	607	253	18	660	1,602	9.2%	59.7%	45.0%	54.5%
対馬市	13	7	251	118	0	128	504	0.8%	20.9%	18.5%	20.1%
壱岐市	18	15	739	143	0	152	1,049	1.9%	60.9%	21.5%	47.0%
五島市	39	56	553	144	8	358	1,119	5.1%	41.6%	18.5%	33.1%
西海市	52	97	894	415	11	922	2,339	11.9%	78.7%	70.0%	75.7%
雲仙市	99	246	1,402	292	3	1,661	3,604	15.4%	70.1%	29.8%	56.9%
南島原市	139	112	1,501	58	8	1,490	3,169	8.7%	83.1%	6.0%	56.3%
市計	1,124	1,703	18,991	3,438	137	15,544	39,813	3.8%	32.9%	11.3%	25.4%
西彼杵郡											
長与町	19	6	494	7	1	109	617	0.3%	20.9%	0.7%	14.7%
時津町	22	130	819	59	0	401	1,409	9.1%	49.1%	4.2%	28.7%
東彼杵郡											
東彼杵町	20	17	262	48	0	173	500	7.2%	70.2%	24.6%	54.6%
川棚町	31	30	577	219	3	568	1,397	6.5%	88.4%	66.8%	81.1%
北松浦郡											
小値賀町	16	26	61	40	16	45	188	41.9%	81.3%	100.0%	87.8%
佐々町	22	57	549	206	6	461	1,279	7.1%	58.5%	44.8%	54.0%
南松浦郡											
新上五島町	49	91	522	223	117	543	1,496	21.5%	95.3%	68.0%	85.0%
郡計	179	357	3,284	802	143	2,300	6,886	6.8%	49.6%	21.2%	39.2%
※事務局	1	0	0	0	0	8	8	算出基準の未就学児・児童・生徒数は、令和6年度長崎県統計による			
合計	1,304	2,060	22,275	4,240	280	17,852	46,707				

※ 長崎県子連会員数の推移

年度	単子数	加入会員数(人)						加入率〔加入数/児童・生徒数〕			
		未就学児	小学生	中学生	高校生	育成者	合計	未就学児	小学生	中学生	小中計
R6年度	1,304	2,060	22,275	4,240	280	17,852	46,707	4.1%	34.6%	12.4%	26.9%
R5年度	1,430	2,293	25,630	4,872	306	20,227	53,328	4.4%	38.9%	14.0%	30.3%
R4年度	1,476	2,465	27,424	5,006	322	21,237	56,454	4.5%	40.8%	14.3%	31.7%
R3年度	1,523	2,712	29,133	5,254	319	22,210	59,628	4.7%	42.8%	14.8%	33.3%
R2年度	1,595	2,968	31,290	5,667	283	23,478	63,686	4.7%	44.8%	15.9%	35.0%
R1年度	1,716	3,517	34,013	6,254	319	25,837	69,940	5.6%	48.3%	17.4%	37.8%

## 子ども会よくあるQ&A

県子連ニュース発行50号を記念して、「子ども会よくあるQ&A」を作成してみました。各単位子ども会、各市町子連の運営に参考にしてくださいようお願いいたします。

### 【子ども会とは】

Q1 子ども会は何をするのですか。

A 地域の子どもや大人が集まって、子どもたちがしたいことを自分たちで計画し、自分たちで実行する会です。

子どもたちに遊びや物づくり、集団生活などのいろいろな体験を通して生きる力と輝きを育み、感動と夢を与えます。

### 【子ども会のよさ】

Q2 子ども会のいちばんのよさは何ですか。

A 一言で言うなら「つながり」です。地域の子どもたちが、親が、住民が仲良くなり、地域のネットワークが広がり、安全・安心な街づくりが実現できます。

現在、地域で子どもや大人が出会っても挨拶したり、声をかけ合ったりする姿が見られなくなりました。子ども会ができると、「元気?」「何しているの?」など、互いに声をかけ合うようになり、地域内のつながり・絆が深まっていくと考えます。

### 【子ども会入会年齢】

Q3 子ども会は何歳から入ることができますか。

A 年齢の上限はなく入会可能です。ただし、3歳までは、保護者の入会が必要です。

### 【子ども会会員数】

Q4 子ども会は何人がいればいいのですか。

A 子ども1人でも子ども会は成立しますが、子どもだけの場合は必ず、大人が1人以上は会員でなければなりません。

極端な場合ですが、子ども会は子どもが1人、大人が100人でも成立します。子どもが100人、大人が1人でも成立します。

### 【大人の会員数】

Q5 子ども会に大人は何人がいればいいのですか。

A 1人でも構いませんが、保護者の参加、また、地域の安全な街づくりや高齢者の生きがいサポートの面から、高齢者や自治会会員の加入を多く求めたいです。実際に、県内には、大人の方が子どもよりも多い子ども会がたくさんあります。

### 【子ども会と大人の加入】

Q6 大人も子ども会に入るのですか。

A 子ども会には、「子どもの集団」と「大人の集団」とが含まれています。「子どもの集団」とは、子ども会活動の主体であり、「大人の集団」とは、子ども、子ども会を育成し支援する「育成者」と「指導者」です。育成者も指導者も子ども会会員です。

### 【大人の役割】

Q7 子ども会で大人は何をするのですか。

A 子どもの活動を見守り支援する立場です。可能な限り子どもたちに任せて出番を極力抑えますが、安全面や金銭面での助言や指導については適宜行っていきます。

### 【役員を選出】

Q8 子ども会の大人(育成会)の中から会長や副会長、書記や会計等の役員を決めなければならないのですか。

A 子ども会の役員(会長、副会長、書記、会計、班長等)は、子ども集団の中から決めていきます。大人は、子ども会活動の見守りやアドバイスをする役割です。また、大人集団の中から、子ども会の代表者(世話役)を決めておくことも必要です。

【代表者の選出】

Q9 代表者(世話役)のなり手がいません。どうすればいいですか。

A 自治会や県子連にご相談してください。代表者の負担軽減の方法や代表者の候補について一緒に考えていきたいと思ひます。

【子ども会の会費】

Q10 入会金や会費は必要ですか。

A 入会金はいりませんが、年会費が必要です。市町子連と県・全子連それぞれに納めていただきます。市町子連会費は市町によって異なります。県・全子連会費は令和7年度は、年240円となっています。

【会費の使途】

Q11 会費は何に使われるのですか。

A 市町子連会費は、市町子連の運営費や事業費に使われます。県・全子連会費は県・全子連の運営費や事業費、子ども会活動中に負ったけがや病気の補償、賠償責任を負ったときの補償に使われます。詳細については、県子連のホームページをご覧ください。

【会費以外の徴収金】

Q12 子ども会活動でお金が必要な場合がありますか。

A 子ども会行事によって、例えば交通費や参加費、入場・入館料が別途必要になる場合もあります。

【子ども会のあり方】

Q13 子ども会の活動が、大人主導で行われ、内容もこれまでの活動を継続し、子どもは参加するだけの現状です。これでいいのでしょうか。

A それぞれの地域によって、子ども会の活動も「子どもが主役」のところもあれば「子どもはお客さん」のところもあるでしょう。地域の実情や子ども会の組織、年齢層等がそれぞれ異なるため、具体的にこうすればいいというのは難しいですが、子どもを主役にするためには、次のような構えで取り組んでみてはいかがでしょうか。

- ① 活動は子どもに決めさせる。
- ② 活動を行う理由を明確に示す。
- ③ 過去の活動にとらわれない。
- ④ 参加は自由とする。
- ⑤ 計画から実践までできる限り子どもに任せる。
- ⑥ 成功することを主眼におかない。
- ⑦ 失敗も大きな財産となる。
- ⑧ 世話役の大人は見返りを求めない。
- ⑨ もっとスリムに、もっと気軽に、子どもの遊びの会でいいという意識にたつ。
- ⑩ 親も子も楽しんでいい。

【子ども会設立条件】

Q14 子ども会を新しく(再び)発足したいと考えています。子ども会設立のためには、どんな準備をすればいいのでしょうか。(設立の条件)

A そんなに難しく考える必要はありません。まずは、お住まいの市町子連か県子連にご相談ください。これだけは準備した方がよいという手続きについてお話があると思ひます。

具体的には、次のような準備が必要になるでしょう。

- ① 大人の仲間づくり
  - 近くに住んでいる子ども(幼小中高生)や親、子どもの見守りや子どもとの交流を希望する大人に子ども会発足への協力を呼びかける。
- ② 子ども会名の決定
  - 地域の名前を用いたり、魅力的なネーミングを工夫したりしてはいかがでしょうか。子どもたちに決めさせてもいいと思ひます。
- ③ 会員名簿の作成
  - 子ども会入会希望者(幼小中高生)と子ども会活動に協力(見守りや支援)できる人の名簿を作成

する。

④ 年間活動計画案の作成

子ども会入会希望者が集まり、どんな活動をしたいか話し合う。これまで、その地域で取り組んでいた子ども会活動を復活してもいいでしょうし、新しく企画してもいいでしょう。大切にしたいのは、子どもが中心となって決めていくことです。

もちろん、年に一つの活動でもいいですし、複数の活動、定期的に行う活動など、まずは、子どもたちの考えをもとに作成してはいかがでしょうか。

**【子ども会への関わり方】**

Q15 子ども会そのものがたいへん負担です。自分も仕事や育児、介護で毎日が精一杯です。

A お疲れ様です。そのようにおっしゃる方がたいへん多いです。負担に感じる理由は、大人が運営すべてをしなければならないと考えているからではないでしょうか。決して無理はしないでください。できることがあったら協力するという立場で構いません。

結果的に一度も子ども会に顔を出せなかったということがあってもいいのです。そこに住んでいらっしゃる方が子ども会の会員として登録し、地域の子もたちを見守り、支えていくという意志を表すだけでも地域の安心・安全に寄与することができます。

子ども会活動が、子どもにとっても保護者にとっても楽しみや生きぬきになることを県子連は願っています。

**【子ども会との関わり方】**

Q16 子育てを卒業した方も子ども会に入会できるのですか。

A もちろんです。少子高齢化がますます進んでいる現在、地域に住んでいる幼小中高生は年々減少の一途をたどっています。だからこそ、異年齢集団活動や世代間交流が大切になってきます。それを子ども会で実現していきたいと考えています。子ども会の活性化は街づくりの一步だという立場です。

地域に住む高齢者の方にも子ども会に入会し、子どもと共に活動に参加していただきたいと思えます。ラジオ体操、ゲートボール、昔遊び、折り紙など、多様な世代で活動を共にすることは、あこがれや感謝、尊敬や慈愛等、それぞれにとって貴重な心の宝物を得るに違いありません。

**【自治会や公民館と子ども会】**

Q17 自治会や公民館関係者が子ども会活動に協力的ではありません。どうすればいいですか。

A まずは、なぜ子ども会に協力的でないのかを尋ねてみたいですね。その理由が納得できるものであれば、子ども会として反省し、正さなければなりません。特別な理由がない、あるいは子ども会として納得できる理由でなければ、子ども会の活動に対して理解していただくよう、活動の目的や内容、期待される成果などを説明したいところです。少子化、地域力低下の今だからこそ、子ども会の重要性・必要性を熱く語りたいところです。そもそも子どもは地域の宝です。

**【ラジオ体操】**

Q18 ラジオ体操をしようと思ったら、集合場所付近の住民から「子どもの声がやかましい。よそでやってくれ。」と言われました。どうすればいいでしょうか。

A 子ども会に対するそういう声は、とっても貴重でありがたいと思います。いい機会だととらえ、まずは、子どもたちにそういう声があることを知らせ、子どもたちに解決策を委ねればよいと思います。

①場所を変える、②声や音を出さないようサイレントラジオ体操にする、③住民の方をお願いに行く、④地域の自治会長に説得をお願いする等、いろいろな解決策を子どもたちなりに考えてきます。その中から、できそうなものから取り組ませればよいのです。結果うまくいかなくてもいいのです。子どもたちが自分で考え、自分で行動することが、子ども会の基本です。成功体験、失敗体験どちらも貴重で価値のある学びです。ラジオ体操をすることだけが目的ではないのです。

**【会員減少対応】**

Q19 子どもが減ってきて活動ができません。どうすればいいですか。

A 子ども会活動はこうあらねばならない、こうしなければならないというものはありません。2人でも3人でもできる活動、したい活動を子どもに考えさせ、実践させればよいのです。もっと多い人数で活動したいという声大きい場合は、近隣の子ども会と合同の子ども会をつくれればよいと思います。

当然、そのためには大人同士がまずコミュニケーションをしっかりとっておく必要がありますね。  
 いずれにしても、子ども会に関する悩みや問題には、居住する市や町の子連や県子連にご相談ください。

**【親の入会反対】**

Q20 子どもは子ども会に入りたいのに、親が反対します。どうすればいいですか。

A まずは、なぜ反対するのかを尋ねたいところです。きっとそれなりの事情があるのでしょうから、「傾聴」「受容」「共感」のスタンスでじっくりお話を聞きます。その後、反対する理由を解決するための方法を一緒に考えたいと思います。必ず解決策はあるはずで。子どもや家族にとって子ども会に入ることの意義、メリットについては、丁寧に説明しましょう。

**【これからの子ども会】**

Q21 子ども会に取り組む基本的なスタンスを教えてください。

A 子ども会に携わる人も随分へってきました。過去の経験や伝統にこだわりすぎる必要はありません。思ったようにやればいいのです。

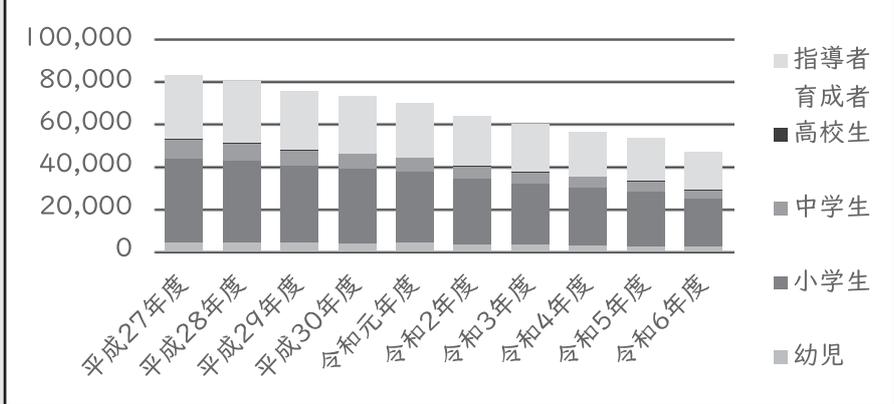
- ① 慣例にとらわれず新しいことにチャレンジ!!
- ② 子どもたちの希望を最優先!!
- ③ できることを一つでもやってみよう!!
- ④ 主役は子どもたち、大人は見守り役!!
- ⑤ 役員は子どもたちの中から、世話役は大人の中から!!
- ⑥ 子どもも大人も楽しい活動を!!
- ⑦ 自治会やシニアクラブ、他子ども会とコラボしよう!!
- ⑧ 歓迎! 大学生ボランティア!!
- ⑨ 入会退会はいつでもどうぞ!!
- ⑩ 世話役輪番制は廃止!!

**《編集後記》**

今回の「県子連ニュース」は区切りの50号を迎え、いつもよりページ数を増やし、12ページといたしました。ご愛読いただき、心から感謝申し上げます。

さて、県子ども会は、昭和44年に誕生して以来、年々会員数が増加してきましたが、平成・令和の時代になると、ひたすら減少の一途をたどってきております。

**登録会員数の推移**



左図は平成27年度から本年度までの子ども会登録会員数の推移を表したグラフです。

8万人を超えていた会員数もここ10年で約半数ほどになっています。特に本年度は例年より減少幅が大きくなっています。

各市町子ども会事務局及び単位子ども会におかれましては、会員数の減少に歯止めをかけるべく、様々な努力をしていただいております。誠にありがとうございます。県子連といたしましても、そうした皆様の取組を応援したいという思いから、今号では新シリーズ「我が市・町の子連活動」、「子ども会よくあるQ&A」を掲載いたしました。熟読吟味していただき、お近くの皆様やお知り合いの方々に子ども会加入を呼びかけていただければありがたいです。お力添えをよろしくお願いいたします。(県子連事務局)

連といたしましても、そうした皆様の取組を応援したいという思いから、今号では新シリーズ「我が市・町の子連活動」、「子ども会よくあるQ&A」を掲載いたしました。

熟読吟味していただき、お近くの皆様やお知り合いの方々に子ども会加入を呼びかけていただければありがたいです。お力添えをよろしくお願いいたします。(県子連事務局)